

## 竹島＝独島問題ネットニュース 34号

2014.7.25

竹島＝独島問題研究ネット発行

<http://www.kr-jp.net>

### <記事一覧>

- 1.【書籍】岩下明裕編『領土という病』北海道大学
- 2.【書籍】久保井規夫『図説 竹島＝独島問題の解決』柘植書房新社
- 3.【書評】木村幹「池内敏著 竹島問題とは何か」『東洋史研究』
- 4.【時評】池内敏「竹島領有権の歴史的事実にかかわる政府見解について」
- 5.【論文】竹内猛「竹島編入当時の日本人の認識」『郷土石見』
- 6.【論文】塚本孝「竹島領土編入(1905年)の意義について」『島嶼研究ジャーナル』
- 7.【論文】三好正弘「竹島問題とクリティカル・デート」『島嶼研究ジャーナル』
- 8.【論説】伊藤成彦「安倍政権の教育破壊政策 竹島と尖閣諸島を「わが国固有の領土」に押し込む」『マスコミ市民』
- 9.【論説】船杉力修「竹島の日本地図についての韓国側報道に対する反論(2)」
- 10.【資料】鎌田文彦他「尖閣諸島、竹島等に関する最近の中国語、朝鮮語資料」

### <記事概要>

#### 1.【書籍】岩下明裕編『領土という病』北海道大学、2014.7

若宮啓文、岡田充、本田良一、本間浩明ら領土問題に詳しいジャーナリストと天児慧、和田春樹、山崎孝史、福原裕二ら一線の研究者による対話。余所では決して聞くことのできない踏み込んだ話が満載です。

今日の日本で領土・国境がブームとなる時、世を賑わす議論の多くは、一方的な思い込みや幻想を振りまいているにすぎない……。本書は、まるで「病」に罹患したような日本の言論状況を乗り越えるべく、北方領土、竹島、尖閣という領土問題を、国際政治の動向やローカルな国境地域の実情をつぶさに見据えつつ討議したシンポジウム、対談の記録。国際関係論、地域研究、政治地理学、政治思想、歴史学など、様々な知見から領土問題に取り組む研究者と、領土問題を追うジャーナリストが集い、熱い議論を繰り広げる。「ボーダースタディーズ(境界研究・国境学)」の学際的・実践的展開を伝える一冊。

[http://hup.gr.jp/modules/zox/index.php?main\\_page=product\\_book\\_info&products\\_id=876](http://hup.gr.jp/modules/zox/index.php?main_page=product_book_info&products_id=876)

#### 2.【書籍】久保井規夫『図説 竹島＝独島問題の解決』柘植書房新社、2014.6

竹島＝独島は、領土問題でなく歴史問題である。日韓両政府が、竹島＝独島の領有権で対立している現状では、まずは、民間から、学術の面から、解決への糸口を引き出すことも無為ではない。そのため、両国民が、歴史認識を深め、誠心対話で独島＝竹島問題など両国民に関わる課題を解決されることを望み、本書を著した・・・

事実はどうか。日本政府は、近世の江戸幕府も、近代の明治政府も、鬱陵島とともに独島＝竹島を朝鮮(韓国)領土と認めていた解決済みの問題であった・・・近代においても、明治政府太政官指令で、1877年3月29日、「竹島外一島之儀、本邦関係無之儀」として、竹島(鬱陵島)、外一島(独島＝竹島)を朝鮮(韓国)領土として決定していた。

<http://www.kr-jp.net/ronbun/kuboi/kuboi-1406book.pdf>

### 3.【書評】木村幹「池内敏著 竹島問題とは何か」『東洋史研究』72(4), 2014.3

本来は近世の日韓関係を専門にする筈の著者が、20世紀以後、第二次世界大戦後の対日講和条約の締結過程における連合国の竹島認識等にまで踏み込んで議論している事に、評者は些かの驚きを禁じる事ができない・・・この点において著者は敢えて大きなリスクを犯しており、その勇氣には拍手を送りたい・・・20世紀以降、特に第二次世界大戦以後に関わる部分においては、既知の限定された数の史料の内容が整理されているに過ぎず、表面的な分析となっている・・・

一言で言うなら、本書は全体として、数多くの部分において日韓両国の主張の実証的不十分さを指摘する事には十分成功しているが、その指摘がこの問題にどのような含意を持つのかは上手く説明できていない。また、文献的に史料的検討を厳格に行い、これまでの議論の誤りを示すという本書の方法は(第二次世界大戦以後の部分を除いて)、必然的に日本側に有利なような結論がもたらされる、という構成になってしまっている。

(PW 必要)[http://www.kr-jp.net/member/ronbun\\_cl/msc\\_ron\\_cl/kimura1403ike.pdf](http://www.kr-jp.net/member/ronbun_cl/msc_ron_cl/kimura1403ike.pdf)

### 4.【時評】池内敏「竹島領有権の歴史的事実にかかわる政府見解について」

『日本史研究』622号、2014.06

明治10年「日本海内竹島外一島地籍編纂方伺」は現在アジア歴史資料センターHPで自由に閲覧できるが外務省はこれを無視し、また誤読の余地がまるでない平易な史料であるにもかかわらず島根県竹島問題研究会の委員たちは曲解を繰り返す・・・そうした水準の「論証」は、同じ主張で凝り固まった人々のあいだでは内輪受けするだろうが、第三者を納得させることは難しい・・・元禄竹島渡海禁令、天保竹島渡海禁令、

明治10年 太政官指令の三つにより、「今日の竹島は日本領ではない」ことをわが国中央政府歴代がそのつど繰り返し確認してきた・・・

「竹島は日本固有の領土である」をよりよく理解するには、拙著『竹島問題とは何か』に対する木村幹の書評(上記『東洋史研究』72-4)が有用である。

(PW 必要)[http://www.kr-jp.net/member/ronbun\\_cl/ikeuchi/ike-1406gov.pdf](http://www.kr-jp.net/member/ronbun_cl/ikeuchi/ike-1406gov.pdf)

## 5.【論文】竹内猛「竹島編入当時の日本人の認識」『郷土石見』95号、2014.5

本稿では、近年の塚本孝論文を批判的に検討することを通して、中井養三郎が「リヤンコ島」を「朝鮮の領土」と考えていた事実と根拠について検証し、1905年の日本政府による竹島＝独島編入の歴史的正当性について改めて考えてみたい。

【コメント】天保竹島一件の際に大坂町奉行における八右衛門の供述をまとめた『竹島渡海一件記』付属の「竹島方角図」、および『朝鮮竹島渡航始末記』付属地図が日本で初めてカラーで紹介された。両図は竹島(鬱陵島)・松島(竹島＝独島)を朝鮮と同じ朱色に彩色して日本領と区別している。これは池内敏のいう歴代政府が確認した「三つ」のうち、天保竹島渡海禁令が「今日の竹島＝独島は日本領ではない」ことを示したものと見えよう。

(PW必要)[http://www.kr-jp.net/member/ronbun\\_cl/takeuchi/take1405.pdf](http://www.kr-jp.net/member/ronbun_cl/takeuchi/take1405.pdf)

## 6.【論文】塚本孝「竹島領土編入(1905年)の意義について」

『島嶼研究ジャーナル』3(2), 2014.4

(韓国政府の広報資料『韓国の美しい島、獨島』は1900年勅令41号の石島が獨島であるというが)、仮に石島が竹島／独島であることが証明されたとすれば、勅令で同島を鬱島郡の管轄区域に含めたことは、大韓帝国の同島に対する領有意思を示すといえよう。しかし、1900年の時点で占有の所為がないので大韓帝国の領土権は成立していない。また、領有意思を示すといっても、法令に行政区域を規定しただけでは、権限を帯びた航海者が上陸し国旗を掲揚し国王の名前で領有を宣言し標識を設置するなどの行為を伴う伝統的な“発見”のように、合理的な期間内に当該国が殖民等により確定的権原にするのを他国が尊重すべき“未完の権原”が生じたとするのもできないであろう。

【コメント】資料がまだ発見されていないことを根拠に、しかるべき「所為」がなかったと断定する論法を塚本は採用するが、1900年以前に韓国人が竹島＝独島にてアシカ猟をおこなったことを示す資料が見つかるなど、竹島＝独島学の日進月歩に留意する必要がある。

(PW必要)[http://www.kr-jp.net/member/ronbun\\_cl/tsukamoto/tsuka-1404.pdf](http://www.kr-jp.net/member/ronbun_cl/tsukamoto/tsuka-1404.pdf)

## 7.【論文】三好正弘「竹島問題とクリティカル・デート」

『島嶼研究ジャーナル』3(2), 2014.4

竹島問題におけるクリティカル・デートを検討した結果、1952年の李承晩大統領の「海洋主権宣言」を以て紛争発生契機と看徴し、その時点をクリック・デートとするのが適当かと思われる。それ以前から我が国の竹島に対する実効的占有状態が継続しており、領有権が確立していたと見られるが、どの時点からか法的な評価をするなら、明確な主権行為としての編入措置の1905年とするのが有力といえるのではない。これに対する韓国からの抗議は見られなかったのである。

【コメント】筆者は「抗議は見られなかった」と断定するが、もし、韓国からの「抗議」を示す資料が見つかったら、クリティカル・デートはその「抗議」の時点になるとも解釈可能である。韓国が日本による竹島＝独島の編入を知った時、何らかのリアクションがあったことが最近見つかった『帝国新聞』(1906.5.1)、大韓毎日申報(1906.7.13)などからうかがわれる。詳細は、

朴炳渉「近代期 獨島の領有権問題」『獨島領有権確立을 위한 研究 V』嶺南大

<http://www.kr-jp.net/ronbun/park/park-1312book.pdf>

(PW必要) [http://www.kr-jp.net/member/ronbun\\_cl/msc\\_ron\\_cl/miyos1404.pdf](http://www.kr-jp.net/member/ronbun_cl/msc_ron_cl/miyos1404.pdf)

## 8.【論説】伊藤成彦「安倍政権の教育破壊政策 竹島と尖閣諸島を「わが国固有の領土」に押し込む」『マスコミ市民』2014.4

安倍内閣の尖閣・竹島政策は、外交政策の破綻であると同時に、国内的には教育政策の破壊であり、安倍内閣の破綻にも通じる。この問題の根源は、日本帝国が琉球王国を篡奪し、朝鮮全土を植民地として支配し、中国本土を侵略したところにある。竹島(ドクト)は日露戦争の際に日本海軍がロシア艦隊の見張り場所に使っていた島を、朝鮮全土を植民地化する過程で日本領土としたことは明らかだ。

(PW必要) <http://www.kr-jp.net/member/media/z-2014/ito-1404edu.pdf>

## 9.【論説】船杉力修「竹島の日本地図についての韓国側報道に対する反論(2)」

『島嶼研究ジャーナル』3(2), 2014.4

(前稿および)本稿では、1905年竹島島根県編入後から1945年までの日本地図のうち、最近の韓国側の報道で出てきた1936年陸地測量部の「地図区域一覧図」と、1931年の検定教科書『日本歴史地図』を取り上げた。「地図区域一覧図」では、竹島が「朝鮮」の区域に含まれているものの、1936年前後に朝鮮総督府作成の資料、地図

を確認しても、竹島が行政上朝鮮総督府の管轄下にあったことは確認できなかった。…次に、1931年の『日本歴史地図』については、確かに該当の本は文部省検定教科書であり、巻末の索引には「竹島(朝鮮)」と記されている…竹島が朝鮮総督府の管轄下にあった歴史的事実はない。

【コメント】結局、船杉の長年の研究によっても、江戸時代から終戦までに竹島＝独島を日本領として描いた官撰の日本全図は1枚もなかったようである。

(PW必要) <http://www.kr-jp.net/member/media/z-2014/funa-1404map2.pdf>

## 10.【資料】鎌田文彦他「尖閣諸島、竹島等に関する最近の中国語、朝鮮語資料」

『レファレンス』2014.3

(国会図書館関西分館)アジア情報室が所蔵する朝鮮語資料の中から、竹島(韓国名「独島」)関係の資料を解説する。アジア情報室では、平成26年2月末現在、タイトルまたはシリーズ名に「독도」または「独島」を含む朝鮮語資料146タイトルを所蔵している。その他、政府刊行物や日韓関係、国際法分野の資料にも、竹島に関する記述が見られる。今回はこれらの資料から、28タイトルを選び、「1 事典・資料集」「2 研究書」「3 特色ある資料」に分けて解説を付した。

[http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo\\_8436649\\_po\\_075806.pdf?contentNo=1&alternativeNo](http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_8436649_po_075806.pdf?contentNo=1&alternativeNo)

○ 竹島＝独島問題ネットニュースのバックナンバーは下記で見られます。

(半月城通信) [http://www.han.org/a/half-moon/mokuji.html#net\\_news](http://www.han.org/a/half-moon/mokuji.html#net_news)